

## 2-3 地域と関わりがあり多くの人が訪れる場

地域と関わりがあり多くの人が訪れる場については、ダム事業における環境影響評価項目の標準項目のうち、その内容がほぼ同様と考えられる、人と自然との触れ合いの活動の場についての予測手法を用いる。

### 2-3-1 予測項目の選定

地域と関わりがあり多くの人が訪れる場における予測の項目及び選定理由を表2-3-1に示す。

表 2-3-1 地域と関わりがあり多くの人が訪れる場における予測の項目の選定理由

項目		選定する理由
環境要素の区分	影響要因の区分	
地域と関わりがあり多くの人が訪れる場	工事の実施	ダムの堤体、施工設備、付替道路等の工事による「近傍の風景」「騒音」「照明」「水質」の変化により、地域と関わりがあり多くの人が訪れる場に影響を及ぼすおそれがあるため。
	土地又は工作物の存在及び供用	ダムの堤体、道路の存在並びにダムの供用及び貯水池の存在による「近傍の風景」「水質」の変化により、地域と関わりがあり多くの人が訪れる場に影響を及ぼすおそれがあるため。

### 2-3-2 予測の方針

#### (1) 予測地域

予測地域は、対象ダム事業実施区域及びその周辺の区域とし、地域と関わりがあり多くの人が訪れる場が環境影響を受けるおそれがある地域とした。具体的には下記のとおりとした。

- ・ ダム事業実施区域の境界から概ね 500m 程度の範囲
- ・ 下流河川については、水質変化等による影響を考慮し、ダム集水域の3倍程度に相当する沙流川合流地点まで



図 2-3-1 予測地域

(2) 予測手法

「工事の実施」と「土地又は工作物の存在及び供用」において、以下の項目について予測を行う。

予測の実施に際しては、直接改変については事業計画との重ね合わせにより、直接改変以外については近傍の風景、騒音等の環境の変化について行う。

- ・多くの人を訪れる場の改変又は縮小の程度
- ・多くの人を訪れる場の利用性（利用面積の減少、アクセス性）の変化
- ・多くの人を訪れる場に求められる快適性（近傍の風景、騒音等）の変化

予測フローを図 2-3-2 に示す。

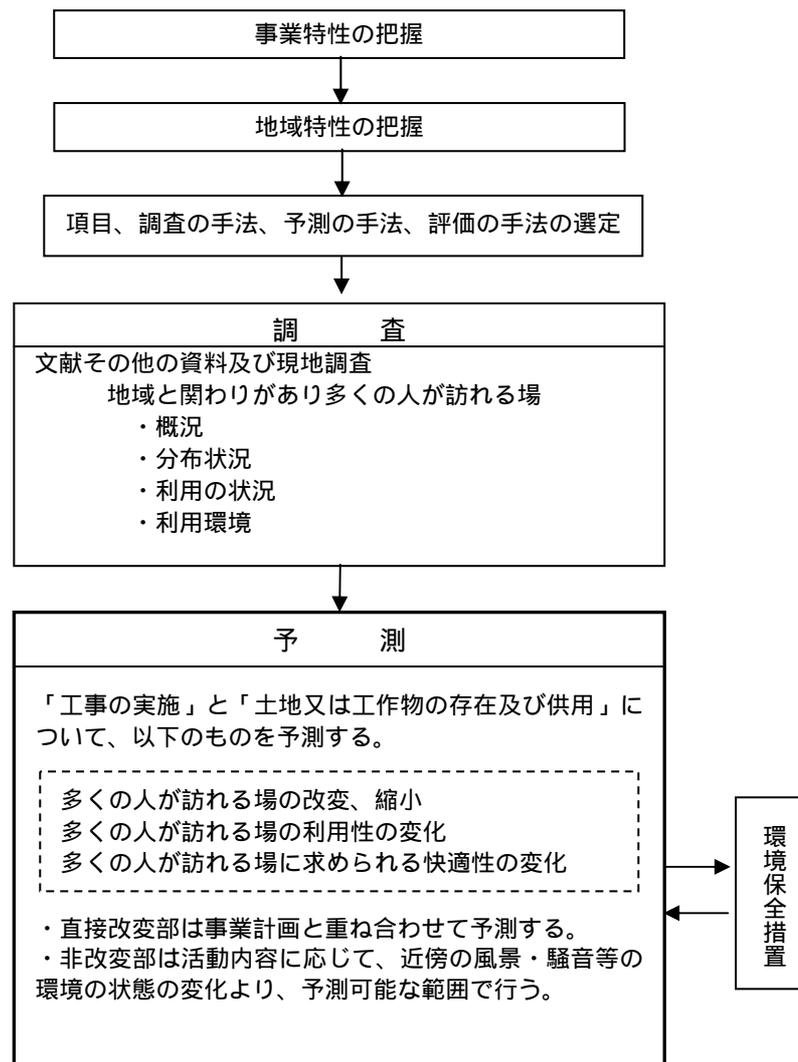


図 2-3-2 地域と関わりがあり多くの人を訪れる場の影響予測フロー

(3) 環境保全措置の検討

環境保全措置の検討は、予測結果を踏まえ、環境影響がない又は小さいと判断される場合以外に、実行可能な範囲内で環境影響を回避又は低減させる措置を検討する。

表 2-3-2 に環境保全措置の例を示す。

表 2-3-2 環境保全措置の例

環境保全措置の種類	効果の内容
原石山の位置の変更	変更による影響の回避・低減が見込まれる。
道路の路線位置の変更	変更による影響の回避・低減が見込まれる。
切土・盛土の位置の変更	変更による影響の回避・低減が見込まれる。
低騒音型建設機械の採用	快適性への変更の回避・低減が見込まれる。
ラウンディングによる地形との調和	周辺の近傍の風景への変更の回避・低減が見込まれる。
法面等の植生の回復	周辺の近傍の風景への変更の回避・低減が見込まれる。

(4) まとめ

予測検討のまとめは、環境保全措置の検討結果をふまえ、環境影響の回避・低減の視点から以下について事業者の見解を明らかにすることにより行う。

- ・環境影響が事業者により実行可能な範囲内で、回避され、又は低減されているか
- ・必要に応じてその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているか

また、国や自治体による基準や目標が示されている場合には、予測結果と基準や目標との整合がとれているかどうかを検討する。